

# 一生勉強、一生青春

—学ぶことの「意味」「価値」とは何か、  
—一生役に立つ「効果の上がる学習方法」とは何かを考える—

栃木県育英会学生寮OB/OG会  
第5回総会、講演会資料

2015年5月9日(土)

13:30 ~ 15:00

栃木県育英会東京学生寮 女子寮食堂  
(東京都目黒区大橋2-20-11)

株式会社 開倫塾

代表取締役 社長

林 明夫

(栃木県学生寮第13期生)

**Q：栃木県生産性本部には、サービス産業活性化・生産性向上委員会が発足するそうですね。**

A：(林明夫。以下略)はい。2015年の4月の理事会で発足が決定し、5月の総会後から活動を開始する予定です。

この委員会は、政府の日本経済再生本部で「サービス産業チャレンジプログラム」が決定され、また、同日、経済産業省から「サービス産業の活性化・生産性向上に向けた取り組み－①業種横断的取り組み、②地域レベルでの支援体制の強化、③卸・小売業の活性化・生産性向上－」が公表されたことを受けて設立されたものです。

政府や経済産業省の決定を見据えながら、栃木県でサービス産業の活性化・生産性向上の活動を行うことは、栃木県の経済の活性化と県民の生活向上に直結するもので、栃木県生産性本部の活動として意義あるものと確信します。

サービス産業に従事する人々の雇用の維持・拡大・労働条件の改善にも、「サービス産業の活性化・生産性向上に向けた取り組み」は意味深いことだと考えます。

**Q：日本経済再生本部が4月15日に決定した「サービス産業チャレンジプログラム」とは何ですか。**

A：(1)我が国のGDPの約70%はサービス産業で占められており、我が国の経済の成長にはサービス産業の活性化・生産性向上が不可欠。また、地域経済においては、サービス産業は地域雇用の大宗を占めるとともに、地域住民の生活を支えるサービスを提供。国民一人ひとりが、活力ある地域経済社会を実感できるようにするためにも、サービス産業の活性化・生産性向上は極めて重要な政策課題。

(2)このため、サービス産業全体に係わる労働生産性向上の目標を掲げた上で、サービス産業の活性化・生産性向上に向けた「全国でのチャレンジ」を幅広く後押しする施策及び支援体制を「サービス産業チャレンジプログラム」として取りまとめます。

(3)サービス産業の活性化・生産性向上には、付加価値の増大と効率性の向上の双方を丁寧に進めていくことが必要。そのため、先進事業者の優良事例を他の事業者にも応用できるよう事業者目線に立って分かりやすく示し、そうした取り組みを全国に普及。

**Q：国の具体的な取り組みとは何ですか。**

A：(1)国は「日本サービス大賞」等を通じて業種横断的に優良取り組み事例を収集するとともに、他の事業者が自らの事業に当てはめ、自身の経営課題に照らしてどのような対策を取ればよいかの「道しるべ」として、事業者の経営課題を解決策として「見える化」し、分かりやすく提供。また、個々の事業者の経営課題を解決を業種横断、業種別双方から支援。

(2)活性化・生産性向上に向けた意欲ある個々の事業者のチャレンジを加速させていくためには、個々の事業者の努力を行政機関、地方自治体、経済団体、業界団体、金融機関、各種専門家が連携して後押し・支援する体制を「全国」的に構築していくことが必要。地域に根差した個々の中・小規模事業者による活性化・生産性向上へのチャレンジを応援する地域レベルでの支援体制を構築。

(3)これらの施策等を着実に実行することで、サービス産業の活性化・生産性向上と、それによる我が国経済の底上げの実現に向けて全力で取り組んでいく。

**Q : なるほど、随分積極的ですね。**

A : (1)はい。この政府の政策は、経済成長の牽引役としてサービス産業を認識した結果であると高く評価すべきと考えます。

(2)政府は、サービス産業の生産性の伸び率を 2020 年までに 2.0% (2013 年は 0.8%) にすることを目指しています。

(3)2.0%の毎年成長は素晴らしい数値目標と高く評価すべきです。デフレ脱却のために 2.0%は必要です。

**Q : 学習塾・予備校・私立学校の経営者の皆様にお伝えしたいことはありますか。**

A : (1)政府や経済産業省がおくればせながらようやくサービス産業の活性化・生産性向上の大切さを認識し、数値目標を定め、「日本サービス大賞」まで設置したことは素晴らしいことです。

(2)政府や経済産業省、自治体がやるべきことが示されましたので、あとは、自己責任・自助努力でサービス産業においてもイノベーション(刷新)を図る以外にありません。よいことがあれば素直な心で学ばせて頂き、社内でも横展開。

(3)自らの組織の活性化・生産性向上の取り組みをどうしたらよいかを考えるべきです。「日本サービス大賞」に挑戦したり、受賞企業は積極的にベンチマークしたりして参りましょう。

**Q : 最後に一言どうぞ。**

A : (1)今月、皆様には是非手に取ってお読み頂きたい本の一冊目は、ジョン・ミクルスウェイト、エイドリアン・ワールドリッジ著「英『エコノミスト』編集長の直言、増税よりも先に「国と政府」をスリムにすれば?」講談社 2015 年 1 月 15 日刊です。「The Fourth Revolution : The Global Race To Reinvent the State」の日本語訳。日本の行政改革を考える上で有用です。

もう一つは、モンゴメリ著、村岡花子訳「赤毛のアンシリーズ」新潮文庫、新潮社版です。ゴールデンウィーク少し前から「赤毛のアン」を読み始め、とうとう 8 巻まで読み終わりました。敗戦直後の日本人にとって、カナダの自然と精神、豊かな生活はおそらく夢のようなものであったかと想像されます。是非御一読を。

2015 年 5 月 8 日

お読みになりやすいように、QandA の形で講演会の資料を書かせて頂きました。

Q 1 : 学力とは何ですか。

A : 「主体的に学ぶ力」だと考えます。

- (1) 自分から進んで学ぶ力
- (2) 高い志(こころざし)をもって学ぶ力
- (3) 自覚をもって学ぶ力
- (4) ハードに長時間学ぶ力

Q 2 : 「教育の成果」は何によって決まると考えますか。

A : (1) 「本人の自覚」

(2) 「先生の力量」

\* 「本人の自覚を促す」のも先生の力量と考えます。

Q 3 : 学力(主体的に学ぶ)が身に着くとどうなるのですか。

A : (1) 「多様な選択肢のある人生を歩む」ことが可能となります。学力が身に着いていないと、  
選択肢の少ない人生しか歩めない可能性が大きいです。

(2) 「正常に機能する社会(持続可能な社会)の形成」に貢献することができます。

Q 4 : 現代社会で求められる「鍵になるような基本的能力(キー・コンピテンシーズ)」とは何ですか。

A : (1) 「知識基盤社会(Knowledge Based Society)」で求められるのは…

「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」です。

(2) 「グローバル化社会」で求められるのは…

「多様な集団で交流する能力」です。

(3) 「課題山積(さんせき)社会」で求められるのは…

「自律的に活動する能力」です。

Q 5 : この3つのキー・コンピテンシーズの前提となる能力とは何ですか。

A : (1) 「学習の学習(Learning To Learn)」つまり「学び方」を身に着けていること。

(2) 「読書により思慮深さ」を身に着けていること。

\* 「書き抜き読書ノート」がお勧めです。大切な本は、「ノート」を取りながら読むこと。

(3) 「新聞」をよく読み「自分で考える力」、「批判的思考(Critical thinking)能力」を身に着けていること。

\* 「スクラップブック」がお勧めです。

Q 6 : 「教育ある人(Educated Person)」とはどのような人ですか。

A : 「学校を卒業した後も継続してずっと学び続ける人」、「一生涯、死ぬまで学び続ける人」と考えます。

Q 7 : ずっと学び続けるべきは誰ですか。

A : (1) すべての有権者と有権者によって選ばれる国や地方自治体のすべての代表

(2) 企業や組織の経営者とそこで働く人々全員

(3)よく生きようとする人すべて

「働く」とは

- (1)生活できるだけの収入を得ること
- (2)仕事を通してお客様や世の中のお役に立つこと
- (3)どのような分野でもよい仕事や社会的活動をするためには学び続けなければならない

\* 製品やサービスの顧客にとっての意味とは、「顧客の問題解決」「社会の問題解決」

**Q 8 : 効果の上がる学び方、学習の方法とは何ですか。**

- A : (1)学習を「理解」、「定着」、「応用」の「3つの段階」に分けて、その各々に最もふさわしい方法で学ぶことです。
- (2)この考え方を「学習の3段階理論」と私は名付けました。
- (3)これは、学校時代だけでなく、社会に出てからも活用できます。一生役立つ学習方法と考えます。よかったら是非、御活用ください。

**Q 9 : 「理解」とは何ですか。**

- A : (1)「理解」とは、今、学んでいることが「うんなるほど」とよくわかること、納得できること、腑(ふ)に落ちることです。
- (2)「理解」には2つの場面があります。1つは、学校の授業や講演会などで先生から教えて頂く場面です。他人から直接教えて頂く場面です。
- (3)もう1つは、自分一人で机に向かって学ぶ場面です。

**Q 10 : 学校の授業や講演会などで先生から教えて頂くことを「理解」するときのポイントは何ですか。**

- A : (1)手を机の上に置き、先生の目をよく見て一言も聞き漏らすことのないように真剣にお話をお聞きすることです。
- (2)先生の指示に従い、グループワークや作業をすることも大事です。
- (3)大切なことはノートにメモを取り続けることも大事です。
- \* 大切なことをノートにメモをし続けることができるのは、極めて大切な能力です。イギリスではノートを「ノートブック」と言います。
  - \* ノートをよく整理してマイ・ノートブックをつくりましょう。
  - \* 仕事はメモで身に着けましょう。
- (4)欠席や遅刻、早退、おしゃべり、居眠り、ケータイ、スマホ、iPad、ボーッとしていることなどは、先生の授業の理解を妨げます。
- (5)授業や講演会の会場には、できれば開始の30分位前に到着。
- ①先生の姿が最もよく見える最前列の座席を確保しましょう。
  - ②最前列からは先生が自分一人に話しかけてくるように見え、口元や表情がよくわかります。
  - ③パワーポイントや板書の内容がよく見え、わかります。
  - ④マイクのない場合や声の小さい先生のお話も、最前列なら聞き取れます。
- (6)教室や会場に早く到着して何をするか。
- ①授業なら、前回までの教科書やノートを1ページ目から見直してすべて頭に入れます。

\*新しいことをよく「理解」するためには、それまでに学んだことをよく「理解」し、身に着けておいたほうが効果的だからです。

②講演会なら、講演会の資料を十分に読み込んで先生のお話に臨みます。授業や講演会の前に頭をフル回転の状況にもっていくと、先生の授業や講演がよく「理解」できます。

**Q11：初めて学ぶことを自分一人で「理解」するときのポイントは何ですか。**

A：(1)まずは学ぶべき教材を明確にすることです。今日は何を用いて学ぶのかをはっきりさせること。

(2)学生なら、学校の教科書なのか、参考書なのか、問題集なのか、授業で用いたノートなのかをまずは決めること。社会人なら、例えばワードはこれで学ぶぞ、エクセルはこれで学ぶぞと、これぞというものを一冊決めること。あれもこれもでは中途半端に終わり、結局何も身に着きません。

(3)教材を一つ決めたら、授業中に学校の先生からそのテキストの説明、解説のお話を聞くような真剣さで、一語一語、一文一文、これは一体どのようなことなのかと理解に努めることです。

(4)意味のよくわからない語句があったら、国語辞典や英和辞典を用いてその意味を調べ、調べたことをノートに書き写すこと。

\*「書き写した意味」はその日のうちに何回も読み直してすべて覚えてしまうこと。正確に書けるようにしてしまうこと。「ことば」は力。身に着いている語彙(ごい)の多さは、大きな力になります。

(1日1語でも、1年で365、10年で3650、30年で1万語となります。継続は力なり)

(5)読み方のよくわからない語句は、漢和辞典(「漢字辞典」とも言います)や英和辞典で調べる。

\*調べたことはノートに書き写して覚える。

(6)古文は、古語辞典で調べる。

(7)ことばの意味を調べてもよくわからないときは、各科目の用語集も大いに活用することです。

御参考まで

(1)小西甚一著「基本古語辞典」(大修館)が2011年に復刊。

小西甚一著の「古文の読解」と「古文研究法」もちくま学芸文庫で復刊。

(2)加地伸行著「漢文法基礎一本当にわかる漢文入門」は講談社学術文庫で復刊。

(3)山崎貞著「新々英文解釈研究」も研究社から復刻版が刊行されています。佐々木高政著「和文英訳の修行」

(4)山川出版社からは「もういちど読む」シリーズとして、「山川日本史」「山川世界史」「山川政治経済」「山川日本近代史」「山川地理」「山川倫理」「山川世界現代史」「山川世界史用語事典」が出版されています。

(5)「化学」「物理」「生物」「数学」の基本図書としては、講談社の「ブルーバックス」が超お勧めです。

(6)この他、「ちくま学芸文庫」「講談社学術文庫」「放送大学テキスト」「NHKの語学のラジオ講座」など、社会人として学ぶべきテキストは山ほどあります。

(7)用語集も山川出版やブルーバックスからたくさん出ています。

**Q12：予習は何のためにするのですか。**

A：(1)わからないことを自分の力ではっきりさせて授業に臨むために行う。これが予習の意味だと考えます。

(2)ですから、学校などで先生の授業をお聞きするのと同じ真剣さで、自分で決めたテキストや教材を一語一句ないがしろにしないで、どのような意味なのか考え抜く。考えてもよくわからなければ、辞書や用語集、参考書、最近ではインターネットなどを用いてわかるまで調べ尽くす。調べた内容はノートにメモをし続け、繰り返し読み直し自分のものとして身につける。

(3)ここまでやって、どうしてもわからないことは何かをはっきりさせてから、その答えを知るために授業に出る。これが予習の意味です。

「足利学校」

(1)昔、足利学校には3000人の学僧が学んだと言われています。

(2)当時の最先端の学問を求めて、遠くは九州や中国地方から足利学校を訪れた学僧も多く、自分のわからないことを羊主(校長先生)から教わり、わかると翌日帰った人もいたそうです。

(3)農業をしながら、足利学校で一生学び続けた人もいたそうです。

**Q13: 「学習の3段階理論」の2番目の「定着」とは何ですか。**

A : (1)「学校の授業」や自分の力で行う「予習」などを通して「うんなるほど」とよく「理解」できた内容を、「自分のものとして身につける」。これが「定着」です。

(2)「定着」のために行ったほうがよいことは次の3つです。

①第1は、声を出して読む「音読」です。

\*スラスラとよく読めるようになるまで声を出して読む練習をすることを「音読練習」と言います。

②第2は、「書き取り」です。

\*楷書(教科書の書体)で、書き順も含めて正確に書けるようになるまで書く練習をすることを「書き取り練習」と言います。

\*英語はブロック体だけでなく、美しい筆記体で書き取る練習をお勧めします。

③第3は、一度やった「計算や問題を何回も解く」ことです。なぜその答え、解答になるのかがよくわかった計算や問題は、計算や問題を見た瞬間に条件反射でパツ、パツ、パツと正解が出るまで繰り返し解く練習をする。これを「計算・問題練習」と言います。

(3)この「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の3つの練習を、「定着のための3大練習」と私は名付けました。「定着のための3大練習」は不可能を可能にします。

御参考: スポーツの3つの宝(小泉信三先生)

(1)練習は不可能を可能にする

(2)フェアプレーの精神

(3)よき友

**Q14: 「学習の3段階理論」の3番目の「応用」とは何ですか。**

A : (1)「理解」「定着」したことを活用してテストでよい点数、合格点が取れること。

(2)社会で役立てることができること。

**Q15: テストでよい点数、合格点を取るためにはどうしたらよいですか。**

A : (1)学校の教科書やその分野の標準的なテキストをスミからスミまでよく「理解」し、「定着」を図ること。

(2)そのテストで過去に出題された問題(これを「過去問」と言います)を5～6年分解き、5～6回やり直すこと。

(3)5～6回やり直すときのポイントは次の2つです。

- ①問題の「本文」「設問」「選択肢」「解答」「解説」のすべてを、学校の教科書や標準的なテキストを学ぶのと同じ手順でスミからスミまでよく「理解」し、「定着」を図ること。
- ②特に問題の「本文」は学校の教科書と同じ熱心さで読み込むこと。

**Q16：社会で役立てるためにはどうしたらよいですか。**

- A：(1)学校で習った教科書、一度学んだ標準的なテキスト、過去問集、ノート、辞書、用語集、参考書などを処分しないこと。身近に置き、折に触れて学び続けること。
- (2)「教養」とは何か。一度学んだことを少しずつでも学び直し、その上に新たな内容を積み重ねることだと考えます。
- (3)本は6回読む。これも1つの考えです。

**Q17：最近はどのような本を読んでいますか。**

- A：(1)ダン・セノール、シャウル・シングル著「アップル、グーグル、マイクロソフトはなぜ、イスラエル企業を欲しがるのか？—イノベーションが次々に生まれる秘密—」ダイヤモンド社 2012年5月19日発行  
\*ベストセラー「Start-up Nation」の日本語訳。
- (2)シュンペーター著「経済発展の理論(上)」岩波文庫  
\*創造的破壊、イノベーション、企業者、銀行の役割がよくわかります。
- (3)モンゴメリ著、村岡花子訳「赤毛のアンシリーズ(1)～(8)」新潮文庫、新潮社刊  
\*赤毛のアンの一伝記です。自然と精神が一体となった豊かな生活とは何かを考えるヒントになります。
- (4)ジョン・ミクルスウェイト、エイドリアン・ウールドリッジ著「増税よりも先に国と政府をスリムにすれば—英「エコノミスト」編集長の直言—」講談社、2015年1月15日刊  
\*ピケティ著「21世紀の資本」もすばらしいが、こちらのほうが日本や世界のためには役立つと思われます。
- (5)石田梅岩著「都鄙(とひ)問答」岩波文庫、1935年刊  
\*江戸時代の京都の商人のテキスト。極めて示唆に富みます。

**Q18：最後に一言どうぞ。**

- A：(1)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)
- (2)栃木県学生寮OB／OG会の皆様に感謝いたします。
- ①各期OB／OG会の開催促進、
  - ②現在の寮生、職員の皆様への支援、
  - ③栃木県学生寮は卒寮生のアイデンティティの1つです。皆様とともに大切にお育て頂きたく希望いたします。

栃木県学生寮とOB／OG会の御発展、皆様の御健康と御活躍を心からお祈り申し上げます。

感謝

— 2015年5月8日記 —